

口ナ介護施設に大打撃

新型コロナウイルスの第7波では、全国の介護施設などでクラスター（集団感染）が多発しました。経営に大きな打撃を受けた介護施設の現場では、国に財政支援強化を求める声が広がっています。

西口友紀惠

石川県能美市の介護老人保健施設「手取（てとり）の里」（入所50床）は、7月19日に入所者の陽性が確認されて以降、

8月4日までに入所者44人、職員30人の大規模クラブとなりました。

手取の里に隣接する同
法人の寺井病院(55
べ石川労働者医療協

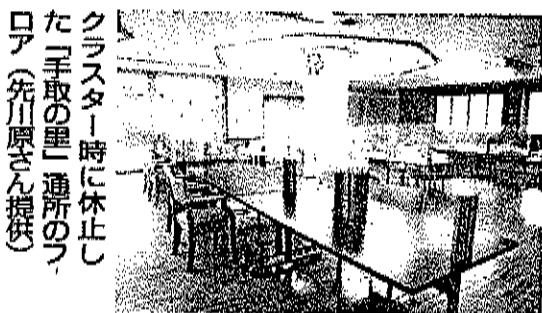
会にはコロナ専用病床はあります。同病院の先川原功事務長は「手取の里の感染者が多くが『難症』『中等症』でし

手取の里の入所担当職員も約8割が感染し、極度の人手不足に。残った入所担当職員で連続勤務をせざるを得ないときも

他院に転院てきたのは
2人だけ。42人は施設内
での療養を余儀なくされ
ました。同じく寺井病院
でも入院患者7人が陽性
となりましたが、コロナ
病床への転院はできませ
んでした。

た。保健所からは隣に井病院があるから、手取の里でなんとか施設内齋義していただけないかといわれた」といいます。

**クラスターで人手不足・減収
国は財政支援強化を**



手取の里の7、8月の

約3週間、外来を対面診療から電話診療に切り替え、発熱外来や特定健診、コロナワクチン接種を中止。病院の外来職員も手取の墨を支援しました。

ありました。通所・訪問リハビリを休止し、職員を応援に回しました。

収支は「通所・訪問リハビリの休止による減収が大きい上に、マスクや手袋などの感染対策関係の如

感染対策をしながら対応していきます。コロナ感染の有無にかかわらず、すべての利用者に対する補助の拡充を求めていたい。かかった費用だけでなく、休止期間の減収の十分な補てんも必要だ」と話します。

赤字が約2800万円でした。今回2カ月で「の大赤字は田もあてられない」と危機感が募ります。

国は医療体制のひっ迫を受け、高齢者施設に陽性者の施設内療養を求めてきました。先川原さんは「施設への財政支援はありますが、施設内療養一人当たりの補助金額が基本15万円と少なすぎて実態とかけ離れている」と指摘します。

「感謝」と「利用」

全日本民主医療機関連合会（全日本民医連）は9月22日、岸田文雄首相相、加藤勝信厚生労働相あてに、クラスター発生に伴う介護事業所の減収・損失への財政支援強化を求める要請書を提出。実際の減収の規模に見合った財政支援の実施、通所系・訪問系の事業所への減収・損失補てんなどを求めています。